

## 消防ヒヤリハットデータベース事例情報シート

## 【事例概要について】



1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	救助（大会）訓練中のロープ端末による負傷事例
3. 体験した事例の中心的要素	救助大会に向けロープブリッジ救出訓練中に、負傷者（2番員）の左側にいた隊員（1番員）がロープを使用して身体座席結びを作成するためロープを振り回した際に、負傷者（2番員）と隊員（1番員）の距離が近かったため、隊員（1番員）の持つロープの端末が負傷者（2番員）の左眼瞼を直撃し負傷（眼球打撲等）したものの。
4. 体験した事例の原因・理由	救助業務における知識及び技術の向上と併せて安全かつ迅速な行動が求められるが、迅速さを追求するあまり他の隊員との連携が不足したもの

## 【体験した事例の直接的な原因について】



1. 体験した事例の直接的な原因	情報入力に問題があった。
------------------	--------------

## 【体験した事例について】



1. 発生日時	平成 19年 5月 24日	午後 3時頃
2. 発生した当時の天候	晴	
3. 発生した活動現場	屋外：救助訓練施設	
4. 体験した事例の種類	回答者が、自分自身で負傷した。	
5. 事故の程度（ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度）	重傷	
6. どのようなことが起きたのか（起きそうになったのか）	その他：ロープ端末との接触	
7. 事例体験時の活動	演習訓練 [ 救助（大会に向けた訓練） ]	
8. （7の活動中） どのような作業中に発生したか	渡過訓練	
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	初めて体験した。	

10. 事例体験者の属性（回答者は当事者A）

○当事者A	年齢[ 22 ]歳、勤続年数[ 4 ]年、現場経験年数[ 4 ]年、階級[ 消防士 ]、同様の活動 [ 頻繁 ]、任務 [ 隊員 ]
○当事者B	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ]、同様の活動 [ ]、任務 [ ]
○当事者C	年齢[ ]歳、勤続年数[ ]年、現場経験年数[ ]年、階級[ ]、同様の活動 [ ]、任務 [ ]
その他 (当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生の経過。

	誰(何)が	なにをした	その他・備考など
経過1		訓練開始（準備運動開始）	
経過2		ロープブリッジ救出訓練開始	
経過3	Aが	ロープブリッジ救出（通し）訓練を開始。身体座席結びを作成し始める	
経過4		他の隊員が身体座席結びを作成するためロープを振り回した際に端末がAの左眼瞼部分に当たり負傷	
経過5	Aが	上司に報告をするとともに、負傷部位を冷却し医療機関を受診する	
経過6			
経過7			
経過8			
経過9			
経過10			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合 : 事故が起きたのはどうしてだと思えるか？  
 ヒヤリハットの場合 : ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思えるか？

他隊(員)との連携活動がうまくいかなかった。

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	いいえ
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	はい
・活動終息（鎮火等）や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	いいえ
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

いいえ	
-----	--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

所属所において、「安全衛生に関するミーティング」を実施するとともに消防本部を通じ全職員へ周知した

○装備・資機材の対策について

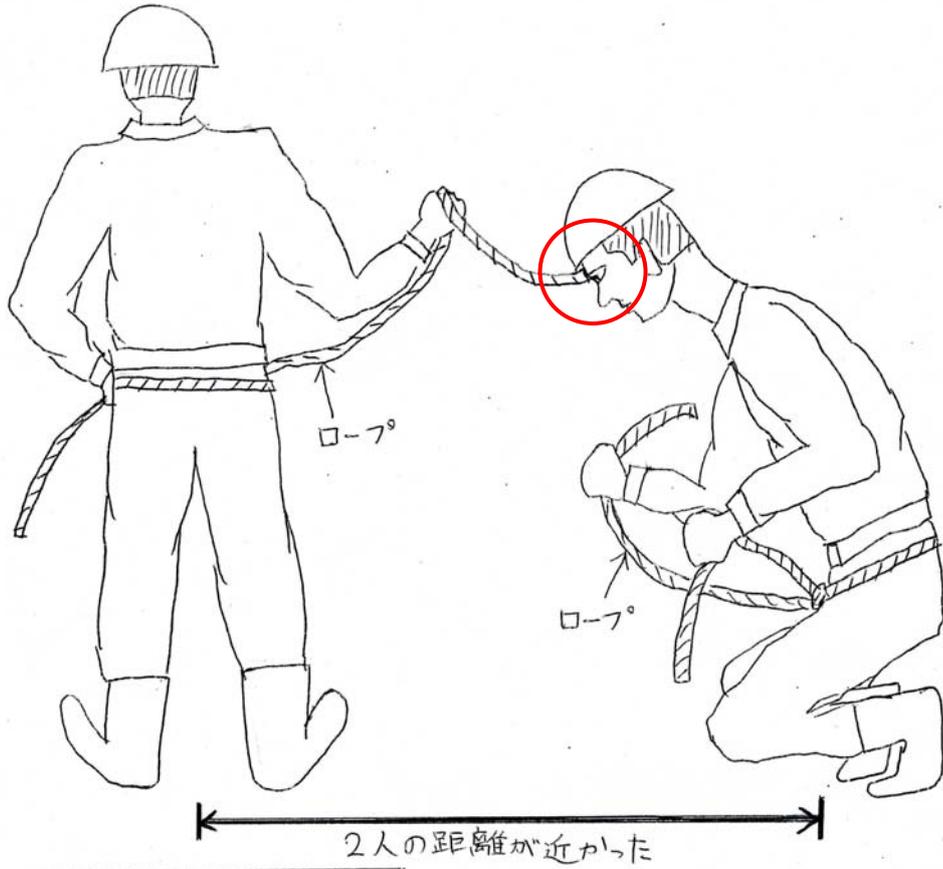
○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

安全かつ迅速な行動が必要であるため、連携作業をする際は周囲に十分聞こえる大きな声で意思伝達をし、接触等の事故が発生しないよう徹底した

# 災害発生状況図

被災時の状態が一目で分かる写真若しくは図（必要に応じて負傷部位の拡大写真（図）など複数添付）



## 拡大図



作成年月日 平成19年6月1日